

## 「良い牧者のたとえ(1)」

ヨハ10:1~10

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①十字架にかかる前の年の仮庵の祭り(半年前)
- ②イエスは神殿を去ったが、まだエルサレムにとどまっている。
- ③生まれつきの盲人の癒しが行われた。
- ④きょうの箇所は、その続きである。

\*ヨハ9:41とヨハ10:1の間に区切りを設けるべきではない。

- ⑤パリサイ人たちへの厳しい言葉が出て来る。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

「良い牧者のたとえ」(§101)

ヨハ10:1~21

#### (3) 良い牧者のたとえについて

①中東では、指導者を羊飼(牧者)、民を羊にたとえるのは、普通のことである。

- ②王や祭司は、自分を羊飼、民を羊と呼んだ。
- ③聖書でも、「牧者と羊」の比喩は頻繁に出て来る。
- ④羊飼いが職業であった人々

・アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセ、ダビデ

#### ⑤有名な聖書箇所

・詩23篇、イザ53章、ルカ15章(いなくなった羊のたとえ)

#### ⑥イエスは、以上のような伝統の上に立って、霊的真理を教えた。

- ・たとえ話だという理由で、語られている真理を軽視してはならない。
- ・たとえ話は、信仰のない者から真理を隠すという効果がある。

### 2. アウトライン

- (1) 羊飼いと盗人(強盗)の対比(1~6節)
- (2) 羊の門と盗人(強盗)の対比(7~10節)
- (3) 良い牧者と雇い人の対比(11~18節)
- (4) 信じる者と信じない者の対比(19~21節)

\*今回は、(1)と(2)を取り上げる。

3. 結論：

- (1) 比喩的言葉について
- (2) 羊と羊飼いの関係について
- (3) 豊かないのちについて

イエスは、良い牧者である。

I. 羊飼いと盗人(強盗)の対比(1~6節)

1. 1節

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です」(1節)

(1) 牧場の朝の情景

- ①「羊の囲い」とは、冬の夜に、羊を集めておく場所である。
- ②通常は、石垣で囲まれている。イバラやアザミが生えている。
- ③仮庵の祭りの時期は、冬に近づいている。
- ④門番がいて、夜間の番をしている。
  - \*獅子、ひょう、狼、熊、ジャッカル、などの野獣がいた。
- ⑤ひとつの囲いの中で、いくつもの羊の群れが休んでいる。
- ⑥朝になると、羊飼いは門から入り、自分の群れを連れ出す。

(2) 「まことに、まことに、あなたがたに告げます」

- ①重要な真理を教える際の、常套句である。
- ②文脈は、生まれつきの盲人の癒しである。
- ③聴衆は、その癒しを目撃したパリサイ人たちと群衆である。

(3) 「盗人と強盗」

- ①ユダヤ教の律法では、盗人と強盗は区別される。
  - \*盗人は家に押し入る。
  - \*強盗は荒野に潜んでいて、旅人を襲う。
  - \*羊飼いは、野獣だけでなく、人間の害にも注意を払う必要があった。
- ②イスカリオテのユダは盗人である(ヨハ12:6)。
- ③バラバは強盗である(ヨハ18:40)。
- ④イエスとともに十字架に付けられた2人も強盗である(マタ27:38、44)。

(4) 「羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者」

① 「claim jumper」というレストランチェーンがある。

\*他人の権利を侵害する者という意味

② これは、パリサイ人たちのことである。

\*彼らは、盗人で強盗である。

\*羊の囲い(ユダヤ人国家)に力づくで侵入し、他人の財産を奪っていく。

2. 2節

**「しかし、門から入る者は、その羊の牧者です」(2節)**

(1) これは、イエスのことである。

① イエスは門から入る。

(2) イエスとパリサイ人たちの対比

① イエスは、旧約聖書の預言の成就として来られた。

② パリサイ人たちは、口伝律法を作り、羊飼いであるかのように振る舞った。

\*彼らは、モーセの律法を知っていると言いながら、イエスを信じなかった。

\*また、イエスを信じた人を会堂から追放した。

3. 3～4節

**「門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。彼は、自分の羊をみな引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているので、彼について行きます」(3～4節)**

(1) 門番とは誰か。3つの可能性。

① 旧約聖書の預言者たち

② バプテスマのヨハネ

③ 聖霊

\*聖霊は、私たちの心の扉を開いてくださる方である。

(2) 羊は、その声を聞き分ける。

① 癒された盲人は、パリサイ人たちの声ではなく、イエスの声に従った。

② パリサイ人たちは、彼を会堂から追放した。

③ イエスは、彼を囲い(パリサイ的ユダヤ教)から導き出した。

(3) 羊飼いは、自分の羊の名を呼ぶ。

① 複数の群れが同じ囲いの中にいる。

(4) 羊飼いは、羊の先頭に立って行く。

①羊は、彼について行く。

②真の牧者は、羊を追い立てない。

③先頭に立って、教え、行動、人格によって羊の群れを導く。

#### 4. 5節

「しかし、ほかの人には決してついて行きません。かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです」(5節)

(1) ほかの人

①盗人と強盗

②別の群れの羊飼

③ここでは、パリサイ人たちのこと。

(2) 2重の拒否

①決してついて行かない。

②逃げ出す。

③牧会者のゴールは、これである。

\*みことばを教えることで、羊が真の牧者の声を聞き分けるようにする。

④ヨハネの福音書の読者は、この羊と自分を重ね合わせたことであろう。

\*彼らの多くが、会堂から追放されていた。

\*それは悲劇ではなく、「ほかの人」から逃げ出したことなのである。

#### 5. 6節

「イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよくわからなかった」(6節)

(1) イエスは、このたとえ話をパリサイ人たちに話した。

①彼らは、理解しなかった。

②羊飼いを軽蔑していたので、自分のこととは思わなかった。

③イエスの羊ではないので、その声を聞き分けることができない。

## II. 羊の門と盗人(強盗)の対比(7~10節)

### 1. 7~9節

「そこで、イエスはまた言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたし

は羊の門です。わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます』(7~9節)

(1) 新しい比喩が用いられる。「まことに、まことに、…」

①ここで語られている門には、2種類ある。

\* 囲いの門 (1~2節)

\* 羊の門 (7節)

(2) 羊飼いに導かれた羊の群れは、牧草のある場所に来る。

①そこに、羊の囲い地がある。

②羊は、羊の門を使ってその囲い地に入出入りする。

③外に出れば水と牧草があり、内に入れば安全がある。

(3) イエスが、神の国に入るための門である。

①イエスよりも前に来た霊的指導者たちは、盗人で強盗である。

②この方以外に、救いはない。

## 2. 10節

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」(10節)

(1) 盗人の動機は、羊を搾取することである。

①自分の利益のために、羊を殺すことさえする。

(2) イエスは、奪うためではなく、与えるために来られた。

①羊は命を得る。

②その命を豊かに持つ。

## 結論

### 1. 比喩的言葉について

(1) 字義通りの解釈とは、比喩は比喩として読むということである。

①イエスは、文字通りの門ではない。

②イエスの役割と、門の役割に、相関関係があるということである。

(2) マコ 14:22 の解釈

「それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、彼らに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしのからだです』(マコ14:22)

- ①パン=イエスのからだ、ではない。
- ②これは、比喩的言葉である。

## 2. 羊と羊飼いの関係について

(1) これもまた、比喩的言葉である。

①羊と羊飼いの関係は、私たちと主イエスの関係に似ている。

(2) 羊飼いは、自分の羊に名を付けている。今もその習慣がある。

①羊飼いは名を呼んで、自分の羊をみな引き出す。

②一頭も残されることはない。

③聖書の例

\*出33:17

「【主】はモーセに仰せられた。『あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから』」

\*イザ43:1

「だが、今、ヤコブよ。あなたを造り出した方、【主】はこう仰せられる。イスラエルよ。あなたを形造った方、【主】はこう仰せられる。『恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのもの』」

\*ルカ19:5

「イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから』」

\*使10:5

「さあ今、ヨッパに人をやって、シモンという人を招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれています」

## 3. 豊かないのちについて

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」(ヨハ10:10)

(1) 福音の三要素を受け入れ、イエスをそのような方と信じる。

(2) その瞬間から、新しいいのちが始まる。

①現在形の動詞。継続した動作を示す。

(3) 新しいいのちには、種々の段階がある。

①豊かに持つ段階へと進む。これも現在形の動詞。

②羊は、門を通過して出入りする。

\*神の臨在の中に入り、神を礼拝する。

\*礼拝した後、この世に出て行く。

③みことばは牧草である。

④聖霊の支配に服すれば服するほど、いのちは豊かになる。